

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	代表者	田宮 崇
事業所名	小規模多機能型居宅介護千手	管理者	廣川 丈人

法人・事業所 の特徴	地域との繋がりを大切にし、概ね3km以内の方より利用して頂いております。 その方の生活パターンや習慣・家族状況に応じ柔軟なサービス提供を行う事で、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らしていける事をお手伝いしています。
---------------	---

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	2人	1人	1人	0人	3人	0人	10人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	事業所自己評価の理解を深めるように学習会を開催する。また、職員間でも教えられるように自己評価の担当の育成を行う。	事業所自己評価についての職員の理解を深める事で、日々の動作がどの項目に繋がるのか意識付けをすることが出来た。 項目内容によっては(成年後見制度など)関わる機会が無い部分もあったが、興味を持てるようになった。今後ご利用者の生活の質を向上出来るように自己評価を自己研鑽に繋がるように活かしていきたい。	定期的に学習会を開催することで、職員の理解が深まり、ひとりひとりの意識づけにつながると思います。 自己評価について、理解されたうえで評価することが、事業所のサービスの質の向上へ繋がることと思います。	定期的に事業所自己評価の進捗状況を確認する機会を持つ。 各項目に対し担当を設置し、目標達成に向けて意識的な取り組みを実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	感染症対策を継続して行く中で、センター以外でも季節感を感じられる装飾を施し、環境美化に努める。	フロア内は季節感のある装飾を施す事が出来たが、センター以外での装飾について積極的に取り組むことが出来なかった。 センターの共有スペースを有効活用し面会に来られた方へ伝えられるような取り組みを起案するも上手く行かなかったので次回に繋がりたい。	清潔感、季節感があり入りやすい環境だと感じます。	季節感のあるフロアの設えを作る。 センターへ来られる方へ季節感、清潔感、日常の様子が分かるような設えになるように見直しを行う。
C. 事業所と地域のかかわり	近隣の方と少しでも関わりが持てるように地域に出る活動(清掃)を企画・実践する。 時期を見てご利用者と散歩を行う機会を設け、地域との関わりを持つ。	ご利用者の方とセンター周りを散歩する機会があり、ゴミ袋を持参して同行させて頂いたが、綺麗な町にてゴミを拾う事がほとんどなかった。 清掃活動を継続しご利用者のお力も借りながら地域へ還元していきたい。	立て看板、広報誌などを活用され、地域と関わりを持たれていると思います。	立て看板の設置、広報誌の配布、清掃活動の継続を行う。 サポートセンター立て看板の設置について目に留まる工夫の検討、広報誌の新たな配布箇所の検討を行う。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>ご利用者の生活を支援する上でキーパーソンとなる地域の方と繋がりを持ち、情報共有を行えるようにする。</p> <p>地域包括支援センター、民生委員の方と定期的に連絡を行い、情報共有を行う。</p>	<p>今年度は地域包括支援センターの地区担当の方と頻りに連絡を取らせて頂く事が出来た。また地域ケア会議の議題としても取り上げていただけただ事で新たな繋がりを作ることも出来た。今回繋がった関係を同じ地区に住む方へも活かせるように情報共有をしっかりと行っていきたい。</p>	<p>地域ケア会議で交番等と顔の見える関係づくりができ、連携を取りやすくなり良かったと思います。</p> <p>地域の方やご家族が、相談しやすい事業所であることが望ましいと思います。</p>	<p>地域包括支援センター、民生委員の方と連絡を行い、各地域の情報共有を行う。</p> <p>シルバー支え隊に登録されている店舗等を把握し、必要な情報共有を図る。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>介護職員の運営推進会議に携わる機会が少ない為、順々に参加出来るように調整を行う。</p>	<p>運営推進会議が書面開催となり実現することが出来なかった。</p> <p>議事録を通じ、運営推進会議の内容を共有し日々の支援に活かしてきた。</p>	<p>現場の声が聞ける機会なので、介護職員が運営推進会議に出席できると良いと思います。</p>	<p>介護職員の運営推進会議への参加を調整し、地域の方々顔を合わせ声を聞く機会を持つ。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>福祉避難所として活用して頂けるようPRのポスターを作成する。災害別など、詳細が分かる内容を検討する。感染対策を行った上で機会があれば町内会などの会合に参加して、センターの活用について説明を行う。</p>	<p>災害時の立て看板を立てる事が出来たが、目に留めてもらえたかと言えば見られている方は少なかったように思う。</p> <p>立て看板を作成しても気にならなければ意味がない。</p> <p>センターでの会合も難しい状況の中にて、いかに目に留めてもらえるかを考えたい。</p>	<p>PRのポスターを作成されたら、コミセンに掲示してもらい、周知してはどうかと思います。コロナ禍で開催が難しいかもしれませんが、コミセン祭りでブースを設けてもらうのはどうでしょうか。</p> <p>立て看板や広報活動に取り組み、地域住民に頼られる存在となっていると思います。</p> <p>地域の方へ、福祉避難所としての活用方法のPRは大事だと思います。広報誌など活用されるのも有効かと思えます。</p>	<p>災害時に動けるようにセンターの避難訓練に合わせ、センターを避難所としてどう使用できるかを職員で確認を行う。</p> <p>サポートセンターの災害時の活用方法を周知できるように立て看板、広報誌、ポスターの作成を行い配布する。</p>